

【その他】

- 1) 奥田一博: 歯周組織再生外来. 歯学部ニュース, 平成12年度(2000)第1号(通算92号) p. 26-29.
- 2) 奥田一博: 歯周病診断外来・歯周組織再生外来の紹介 エムドゲインによる歯周組織再生治療. ニューズ・レター 新潟大学歯学部附属病院, 2000年8月20日第3号 p. 1.
- 3) 吉江弘正: 歯周病は妊娠に影響. 新潟日報, 2000年10月25日.
- 4) 吉江弘正: 病院最前線ガイド2000 歯周病 新潟大学歯学部附属病院第二保存科. 週刊文春, 2000年11月9日.
- 5) 吉江弘正: 「目指せ 8020!」NT21, 2000年11月3日.
- 6) 吉江弘正: ゆうどき新潟 暮らしQ&A「歯周病にご用心」NHK新潟, 2000年11月12日.
- 7) 山崎和久, 大澤 豊: 最近のトピックス 歯周疾患と心臓血管疾患. 新潟歯学会雑誌 30(2):55-56, 2000.

口腔外科学第一講座

【論文】

- 1) Kobayashi T, Honma K, Hamamoto Y, Shingaki S, Hanada K, Nakajima T: Effects of wire and miniplate fixation on mandibular stability and TMJ symptoms following orthognathic surgery. Clin. Orthod. Res. 3: 155-161, 2000.
- 2) Kemaloglu YK, Kobayashi T, Nakajima T: Associations between the eustachian tube and craniofacial skeleton. Int. J. Ped. Otorhinolaryngol. 53: 195-205, 2000.
- 3) Kobayashi T, Honma K, Shingaki S, Nakajima T: Changes in masticatory function after orthognathic treatment in patients with mandibular prognathism. Br. J. Oral Maxillofac. Surg. (in press)
- 4) Shimizu N, Kuwano R, Shingaki S, Nakajima T: Detection of hamster squamous cell carcinoma cells (O-1N) in blood and lymph nodes by reverse transcriptase-polymerase chain reaction for cytokeratin 19. Oral Med Pathol 5: 71-76, 2000.
- 5) Terashi H, Izumi K, Rhodes LM, Marcelo CL: Human stratified squamous epithelia differ in cellular fatty acid composition. J Dermatol Sci. 24: 14-24, 2000.
- 6) Izumi K, Nakajima T, Maeda T, Ohtake-Nishikawa S, Saku T: A progressive mandibular radiolucency. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod 2001(in press)
- 7) Niimi K, Yoshizawa M, Nakajima T, Saku T: Vascular invasion in squamous cell carcinomas of

- human oral mucosa. Oral Oncol 37(4) 357-364, 2001.
- 8) Hoshina Y, Hamamoto Y, Suzuki I, Nakajima T, Ida-Yonemochi H, Saku T: Melanotic neuroectodermal tumor of infancy in the mandible. Report of a case. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod. 89(5) 594-599, 2000.
 - 9) 新垣 晋, 中島民雄: 口腔癌治療の現況. HOSPITAL DENTISTRY and ORAL-MAXILLOFACIAL SURGERY 11(2) 101-112, 1999.
 - 10) 佐々井敬祐, 内藤義隆, 新垣 晋: 伊勢崎市民病院歯科口腔外科における顎関節症III型クローズドロック症例79例に対するパンピング・マニプレーション療法の検討. 群馬医学 70: 47-49, 1999.
 - 11) 中條智恵, 泉 健次, 新垣 晋, 中島民雄, 林 孝文, 鈴木 誠: 新生児に発生した舌下型ガマ腫の1例. 日口外誌46(9) 536-538, 2000.
 - 12) 寺師浩人, Izumi K, Rhodes LM, Marcelo CL: 毛包細胞と表皮角化細胞の細胞膜リン脂質脂肪酸組成の相違点 脂肪酸によるよりよい上皮化への環境作り(1) Prog Med. 20: 2328-2329, 2000.
 - 13) 寺師浩人, Izumi K, Rhodes LM, Deveci M, Marcelo CL: パルミチン酸(16:0)による培養表皮角化細胞の増殖効果 脂肪酸によるよりよい上皮化への環境作り(2) Prog Med. 20: 2329-2331, 2000.
 - 14) 泉 健次, 寺師浩人, 芳澤享子, Marcelo CL, Feinberg SE: ヒト培養複合口腔粘膜上皮層におけるGlucose transporter 1(GLUT 1)発現. 日口外誌, 2001 (in press)
 - 15) 鈴木一郎, 伊藤 豊: 歯学部附属病院情報システムの動向 最近, 稼動あるいは稼動予定の歯学部附属病院情報システムについて 医療情報学 20(Suppl. 2) 908-911, 2000.
 - 16) 鈴木一郎, 染矢源治, 宮崎秀夫, 安藤雄一, 野村修一, 根津雄一, 登坂邦彦, 鷺沢直也, 河内 博, 峯田和彦: 地域在宅歯科医療総合支援ネットワークシステムの構築. 医療情報学 20(Suppl. 2) 806-807, 2000.
 - 17) 鈴木一郎, 野村修一, 小林 博: コンピュータネットワークを利用した在宅歯科診療支援システム. 日本エム・イー学会専門別委員会「在宅医療とME技術」研究会研究報告集 9(1) 5-6, 2000.
 - 18) 宇都宮宏子, 依田浩子, 鈴木一郎, 朔 敬: 上唇毛包腫の1例. 新潟歯学会誌 30(1) 57-60, 2000.
 - 19) 芳澤享子, 柴田桂子, 高田真仁, 泉 健次, 新垣 晋, 平 周三: 顎下腺に発生した筋上皮腫の1例. 日口外誌46(11) 677-679, 2000.
 - 20) 芳澤享子, 柴田桂子, 清水信子, 泉 健次, 鈴木一郎, 新垣 晋: KTPレーザーを用いた, 多発性や多中心性口腔前癌病変の治療. 新潟歯学会誌30(2) 209-214,

2000.

【著書】

1) Izumi K, Feinberg SE: Skin and oral mucosal substitutes. In "Oral and Maxillofacial Clinics of North America". eds. by Buckley MJ, Keller JC. W. B. SAUNDERS, PA, USA. 2001 (in press).

【商業誌】

1) 泉 直也, 網塚憲生, 小澤英浩: プレフェルジン A, ワートマニン投与後の破骨細胞の形態変化: THE BONE, 14(3):273-276, 2000.

2) 濱本宜興: 介護保険がはじまって. 日本歯科評論 9月号 239-241, 2000.

3) 濱本宜興: セメント質発生におけるエナメル基質蛋白質の役割 歯冠セメント質と歯根セメント質 Periodom 3号 4-9, 2000.

4) 濱本宜興: 介護保険の現状と問題点. 日本歯科評論 2月号 59-64, 2001.

5) 毛利 環, 小林正治: 口腔内装置による閉塞型睡眠時無呼吸の治療. Lars Bondemark 訳. the Quintessence 20(5) 933-940, 2001.

6) 毛利 環, 小林正治: 論文背景と解説. the Quintessence. 20(5) 940-941, 2001.

【研究成果報告書】

1) 高田真仁, 森田修一, 花田晃治: 自家移植歯の治療期と移動時における歯根膜上皮系細胞と分泌物質の動態. 平成11-12年度文部省科学研究費補助金研究, 基盤研究 C(2) 課題番号11672041, 2000年.

【講演・シンポジウム】

1) Nomura T, Gold E, Powers MP, Katz JL: Biomechanics of mandible and TMI. 9th International Transmandibular Implant (TMI) Workshop, Case Western Reserve University, School of Dentistry, Cleveland, Ohio, USA. May 11-13, 2000.

2) Nomura T: Reconstruction and Implants in Oral and Maxillofacial area. Biomaterials for prosthetic and orthotic use, Fall 2000. Case Western Reserve University, Biomedical Engineering, Cleveland, Ohio, USA. Dec 4-6, 2000.

3) 鈴木一郎: 歯学部附属病院情報システムの動向 最近, 稼働あるいは稼働予定の歯学部附属病院情報システムについて ワークショップ「歯科領域の標準化 新たな一歩をここから」第1回日本医療情報学会学術大会(第20回医療情報学連合大会), 浜松, 2000年11月25日.

4) 濱本宜興: 骨粗鬆症の予防に関する保健事業につい

て. 第33回骨粗鬆症財団教育ゼミナール, 東京, 2000年9月8日.

5) 濱本宜興: エナメル基質由来物質(エムドゲイン)や歯の凍結保存は, 歯牙移植の適応症を拡大できるか. 第10回日本自家歯牙移植研究会特別講演会, 名古屋, 2000年10月8日.

6) 濱本宜興: 最近の歯科保健行政の動向. 平成12年度歯科口腔状態と介護予防に関する調査事業中央打合せ, 東京, 2000年12月21日.

【学会発表】

1) Nomura T, Powers MP, Gold E, Katz JL: Finite element analysis of transmandibular implant. 30th Annual Meeting of the American Association for Dental Research, Chicago, IL, USA. March 10, 2001.

2) Niimi K, Yoshizawa M, Saku T, Shingaki S, Nakajima T: Histopathological and immunohistochemical study of vascular invasion of human oral squamous cell carcinoma. 4th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery, Cheju Island, Korea, June 6-10th, 2000.

3) Shingaki S, Nomura T, Takada M, Kobayashi T, Suzuki I, Nakajima T: Squamous cell carcinoma of the lower alveolus: analysis of prognostic factors. 4th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery, Cheju Island, Korea, June 6-10th, 2000.

4) Kanoh H, Shingaki S, Oda Y, Nakajima T, Yokobayashi T, Shimizu T: A clinicopathological study of 36 pleomorphic adenoma arising from minor salivary glands. 4th Asian Congress on Oral and Maxillofacial Surgery, Cheju Island, Korea, June 6-10th, 2000.

5) Iida A, Ono K, Takagi R, Imai N, Hayatsu M, Ohashi Y, Izumi K: Spontaneous size reduction of the residual cleft after soft palate repair can reduce the surgical damages at the hard palate closure in two-stage palatoplasty. 1st Congress of Cleft Palate, Zurich, Switzerland, Jul. 1-5, 2000. J Cranio-Maxillofac Surg. 28: suppl. 1: 38, 2000.

6) Gong L, Hoshi K, Ejiri S, Nakajima T, Ozawa H: Effects of YM 175 on ectopic bones induced by rhBMP-2. Hard tissue biology and cell biology international symposium in Asian scientific seminar in OKAYAMA. Okayama, Aug 30, 2000.

7) 小谷野善久, 佐々井敬祐, 新垣 晋: 当科における顎骨骨折診断に対する三次元CTの活用. 平成12年度新潟歯学会総会, 新潟, 2000年4月15日.

8) 佐々井敬祐, 小谷野善久, 新垣 晋: 伊勢崎市市民病

院歯科口腔外科における気管切開症例の臨床的検討．平成12年度新潟歯学会総会，新潟，2000年4月15日．

9) 星名由紀子，新垣 晋，中島民雄：顎骨嚢胞術後の骨形成について CTによる定量的分析．平成12年度新潟歯学会総会，新潟，2000年4月15日．

10) 水野健太郎，高田真仁，小林正治，鈴木一郎，新垣晋，中島民雄：悪性唾液腺腫瘍の臨床的検討．平成12年度新潟歯学会総会，新潟，2000年4月15日．

11) 佐々井敬祐，鈴木 豊，新垣 晋：伊勢崎市民病院歯科口腔外科における口腔癌一次症例に対する頸部郭清術の臨床的検討．第26回日本口腔外科学会北日本地方会，盛岡，2000年4月27日．

12) 星名由紀子，鈴木一郎，新垣 晋，中島民雄，林孝文：当科における悪性リンパ腫16例の臨床的検討．第54回日本口腔科学会総会，東京，2000年5月12，13日．

13) 宮浦靖司，星名秀行，長島克弘，宮本 猛，高木律男，高田真仁，新垣 晋，中島民雄：頭頸部粘表皮癌24例の臨床病理学的検討．第54回日本口腔科学会総会，東京，2000年5月12，13日．

14) 佐々井敬祐，高田佳之，新垣 晋：Sliding posterior tongue flapにて再建した舌癌の4例．平成12年度第1回新潟歯学会例会，新潟，2000年7月8日．

15) 小池朋江，山村健介，高橋義弘，新垣 晋，山田好秋：緊張性振動反射（TVR）を用いたラット閉口筋興奮性の検討．第42回歯科基礎医学会，大阪，2000年10月1日．

16) 小池朋江，山村健介，高橋義弘，新垣 晋，山田好秋：緊張性振動反射（TVR）を用いたラット閉口筋興奮性の検討．平成12年度新潟歯学会第2回例会，新潟，2000年11月11日．

17) 本間克彦，泉 健次，小林正治，新垣 晋，中島民雄，杉山道男：歯槽部に仮骨延長法を応用した上顎犬歯Ankylosisの1例．第10回日本顎変形症学会総会，大津，2000年4月20，21日．

18) 中條智恵，小林正治，加納浩之，本間克彦，中島民雄，鍛冶昌孝，高木律男，寺田員人，花田晃治：顎変形症患者への術後アンケート結果．第10回日本顎変形症学会総会，大津，2000年4月20，21日．

19) 中條智恵，泉 健次，小林正治，小野由起子，新垣晋，中島民雄，林 孝文，鈴木誠：新生児に認められた舌下型ガマ腫の1例．第54回日本口腔科学会総会，東京，2000年5月12，13日．

20) 中條智恵，横林康男，水野健太郎：上顎に生じたセメント質形成性線維腫の1例．平成12年度新潟歯学会第2回例会，新潟，2000年11月11日．

21) 高田真仁，小野由起子，濱本宜興，小林正治，新垣晋，中島民雄：上顎悪性腫瘍術後に重篤な肺塞栓症を併発した1例．第54回日本口腔科学会総会，東京，2000年

5月12，13日．

22) 高田真仁，芳澤享子，濱本宜興，小林正治，新垣晋，中島民雄：口腔扁平上皮癌死亡症例の臨床的検討．第45回日本口腔外科学会総会，千葉，2000年10月12，13日．

23) 泉 健次，Marcelo CL, Feinberg SE：SCIDマウスに移植したヒト複合口腔粘膜の動態に関する組織学的検討．第10回日本口腔粘膜学会総会，徳島，2000年6月3日．日口粘膜誌 6(2) 103, 2000.

24) 泉 健次，羽尾奈津子，新垣 晋，朔 敬：下顎骨線維性組織球腫切除後に発生した頬部悪性線維性組織球腫の1例．第11回日本口腔病理学会，横浜，2000年8月25,26日．Oral Med Pathol 5(2) 124, 2000.

25) 泉 健次，芳澤享子，鈴木一郎，飯田明彦，新垣晋：ヒト新鮮屍体真皮AlloDermの使用経験．第54回日本形成外科学会新潟地方会，新潟，2000年11月13日．

26) 寺師浩人，泉 健次：ウシ胎仔血清を使用しない皮膚表皮及び口腔粘膜（歯肉）角化細胞の培養方法と培養上皮シート作成方法．第9回日本形成外科学会基礎学術集会，名古屋，2000年10月5，6日．

27) 鈴木一郎，染矢源治，宮崎秀夫，安藤雄一，野村修一，根津雄一，登坂邦彦，鷺沢直也，河内 博，峯田和彦：地域在宅歯科医療総合支援ネットワークシステムの構築．第1回日本医療情報学会学術大会（第20回医療情報学連合大会），浜松，2000年11月24日．

28) 濱本宜興，奥田一博，吉江弘正，小澤英浩：歯根膜に障害を受けた移植歯の歯根膜再生とエナメル基質由来物質．日本歯周病学会春期大会，徳島，2000年5月13日．

29) 濱本宜興，小澤英浩：モルモット臼歯セメント質発生とエナメル芽細胞．歯科基礎医学会総会，大阪，2000年10月1日．

30) 芳澤享子，Rhodes LM, Elner VM, Marcelo CL, Feinberg SE: 無血清培地を用いて作製したヒト培養複合眼瞼結膜と培養複合口腔粘膜の免疫組織学的検討．第45回日本口腔外科学会総会，千葉，2000年10月12-13日．

31) 河野正己，林 孝文，中島民雄，新垣 晋，石黒慶史，泉 直也，小林正治：睡眠呼吸障害における頸動脈の動脈硬化病変の出現頻度．第54回日本口腔科学会総会，東京，2000年5月12，13日．

32) 毛利 環，関 康弘，森田修一，花田晃治，本間克彦，小林正治，中島民雄，福田純一，鍛冶昌孝，高木律男：下顎前方移動術のオーバーコレクションを可能とする術前矯正治療術式の考案．第10回日本顎変形症学会総会，大津，2000年，4月20，21日．

33) 山田秀樹，竹山雅規，布田花子，森田修一，花田晃治，本間克彦，小林正治，中島民雄，鍛冶昌孝，高木律男：上顎前方歯槽骨切り術（Wassmund法）による軟組織側貌の変化．矯正単独症例との比較．第10回日本顎

変形症学会総会, 大津, 2000年, 4月20, 21日.

34) 飯田明彦, 小野和宏, 今井信行, 高木律男, 濱本宜興, 小林正治, 朝日藤寿一, 毛利環, 田中みか子, 櫻井直樹, 野村章子, 清水 光: 歯牙移植, 歯科インプラントを応用した顎裂部の咬合再建. 第24回日本口蓋裂学会総会, 東京, 2000年, 6月12, 13日.

35) 小林正治, 本間克彦, 泉 健次, 山田一尋, 林 孝文, 新垣 晋: 下顎後退症患者の顎関節症状とCT画像所見の検討. 第13回日本顎関節学会総会, 福岡, 2000年, 6月28, 29日.

36) 林 孝文, 伊藤寿介, 小山純一, 小林富貴子, 小林正治, 小林龍彰, 櫻井直樹, 田口直幸, 山田一尋, 鈴木政弘: 開口障害を有する症例のCT所見. 第13回日本顎関節学会総会, 福岡, 2000年, 6月28, 29日.

37) 小野和宏, 今井信行, 高木律男, 濱本宜興, 小林正治: 歯牙移植, 歯科インプラントを応用した顎裂部の咬合再建. 第53回日本形成外科学会新潟地方会, 新潟, 2000年, 7月10日.

38) 小林正治, 本間克彦, 加納浩之, 新垣 晋: 最近2年間にWassmund法による上顎前歯部歯槽骨切り術を施行した上顎前突症5例の検討. 第53回日本形成外科学会新潟地方会, 新潟, 2000年, 7月10日.

39) 小林正治, 河野正己, 新垣 晋, 山口貞博, 泉 直也, 石黒慶史: パルスオキシメトリーによる睡眠呼吸障害のスクリーニング検査法の検討. 第45回日本口腔外科学会総会, 千葉, 2000年, 10月12, 13日.

40) 小野由起子, 高田真仁, 星名由紀子, 新垣 晋, 中島民雄: 下顎枝内側の嚢胞に起因すると思われる下顎骨周囲炎の一例. 第26回日本口腔外科学会北日本地方会, 盛岡, 2000年4月27, 28日.

41) 宮 琳, 星 和人, 中島民雄, 坂井日出男, 監物新一, 江尻貞一, 小澤英浩: BMP-2により誘導される異所性骨に対するbisphosphonate YM 175の影響. 第18回日本骨代謝学会, 広島, 2000年7月21日. 日骨代謝誌 18(2) 293, 2000.

42) 宮 琳, 星 和人, 中島民雄, 坂井日出男, 監物新一, 江尻貞一, 小澤英浩: BMP-2により誘導される異所性骨に対するbisphosphonate YM 175の影響. 平成12年度新潟歯学会第2回例会, 新潟, 2000年11月11日.

【研究会発表】

1) 鈴木一郎, 野村修一, 小林 博: コンピュータネットワークを利用した在宅歯科診療支援システム. 日本エム・イー学会専門別委員会「在宅医療とME技術」研究会, 新潟, 2000年10月14日.

2) 泉 直也: 下顎頰部に発生した巨大な血管腫の一例. 第47回新潟口腔外科麻酔科集談会, 新潟, 2000年11月16日.

3) 新垣晋: 口腔癌治療の現況, 第60回新潟癌治療研究会, 新潟, 2000年7月15日.

【受賞】

1) 2000年度(第2回)日本組織細胞化学会論文賞. Izumi N, Amizuka N, Oda K, Misumi Y, Ikehara Y, Ozawa H: Ultrastructural Alteration of Osteoclasts Treated with Brefeldin A and Wortmannin. Acta. Histochem Cytochem 32: 393-405, 1999.

【その他】

1) 高田真仁: 口腔外科小手術の臨床(2)歯牙移植について. 平成12年度歯科臨床研修医セミナー, 新潟, 2000年9月20日.

2) 泉健次: ヒト培養口腔粘膜の臨床応用について. 病棟看護婦研修会, 新潟, 2000年3月12日.

3) 鈴木一郎: 旭町キャンパスのネットワーク事情. 新潟大学総合情報処理センター年報, 11: 3-11, 2000.

4) 鈴木一郎: 歯学部附属病院の新しい医療情報システム. 新潟大学歯学部ニュース, 92: 33-39, 2000.

5) 鈴木一郎: ネットワークを利用したリアルタイム; オンデマンドビデオ. 新大学報 No 638: 8, 1999

6) 小林正治: 口腔外科小手術の臨床(1)平成12年度歯科臨床研修セミナー. 新潟, 2000年6月14日

口腔外科学第二講座

【論文】

1) Yukihiko Fujimori, Jun Cheng, Makoto Suzuki, Ritsuo Takagi, Takashi Saku: Histologic evaluation of incisional biopsy sample of pleomorphic adenoma of the palate: A technical guidance for successful pathologic diagnosis. Oral Med Pathol, 5(1) 25-28, 2000.

2) Ohshima, H., Ajima, H., Kawano, Y., Nozawa-Inoue, K., Wakisaka, S. and Maeda, T.: Transient expression of heat shock protein (Hsp) 25 in the dental pulp and enamel organ during odontogenesis in the rat incisor. Arch. Histol. Cytol. 63(4) 381-395, 2000

3) Ishii, K., Arai, T., Saito, I., Morita, S., Hanada, K., Ono, K., Takagi, R.: Effects of Hotz' plate-based two-stage palatoplasty in unilateral cleft lip and palate - A comparative study of subjects treated with one-stage palatoplasty, and normal subjects-. Orthodontic Waves, 59(6): 402-406, 2000.

4) Atsumi, Y., Ajima, H., Maeda, T., Kurisu, K. and Wakisaka, S.: Delayed expression of calbindin D28k during regeneration of the periodontal Ruffini endings of the rat incisor following injury to the inferior alveolar nerve. Cells Tissues Organs (Acta. Anat.)